岐阜市立新大学基本計画（市立大学の統合と新学部の設置に向けて）の概要【1/2ページ】

令和8年11月改定
岐　阜　市

1．基本計画策定及び改定までの経緯

- 令和6年3月に策定した岐阜市立女子短期大学将来構想の具体化に向けた検討結果に基づき、令和8年2月に**岐阜市立新大学基本計画**を策定。
- **基本計画**では、本市が抱える**政策課題**に対して、**人材流出の抑制**、**人材の地元定着**などに資する**新たな高等教育機能**として**新大学を設置**することとし、令和15年度（2033年度）を目途にしながら、**可能な限り早い時期に開設する**ことを目標として設定
- 将来的な理工系・デジタル人材のニーズ等による**国の高等教育改革の方向性**との整合や**基本構想策定後の新たな課題**を踏まえ、**基本計画の理念を継承**しつつ、**認可取得の確実性向上**、**財政負担の軽減**、**開設時期の早期化を図り**、新大学構想を**より実現可能な形へ具体化**するため**改定**

2．新大学のグランドデザイン

（岐阜市立大学（仮称）の設置）

- 本市が目指す大学像をより実現性が高く持続可能なものとして具体化するため、**岐阜薬科大学と岐阜市立女子短期大学を統合した新大学を設置**
- １大学化により、両大学が長年にわたり培ってきた**伝統や歴史、高度な教育研究の実績を継承**するとともに、それぞれの**強みを融合・発展**させることによる、公立大学として**新たな価値創造とブランド力向上**
- 岐阜薬科大学から継続する**薬学部**と、社会や産業界からの需要が高まる理工系・デジタル分野の人材育成を強化するため、岐女短の教育研究を発展的に継承した**新たな理系学部**の**2学部体制**
- 新大学及び新学部の正式名称は、学部開設時期に合わせて検討。基本計画の段階では、新大学を**「岐阜市立大学（仮称）」**、新学部を**「創造理工学部（仮称）」**とする

（設置の意義）

- 新大学は**岐阜市未来のまちづくり構想に掲げるまちづくりの方向性に整合する政策。**新学部の設置は**社会貢献**であり**まちづくりそのもの**。

（基本理念）

- **“こどもファースト”**を不変の方針とする岐阜市が、岐阜薬科大学と岐阜市立女子短期大学の伝統と実績を継承・発展させ、**都市全体をキャンパス**として、学生の能力とまちのなりわいを育み、**生徒・学生、企業、市民、全ての人に選ばれる「岐阜市立大学（仮称）」を実現**
- 教育と研究を通じて地域課題の解決に取り組み、まちの価値を高めるとともに、人々の健康で豊かな暮らしの実現を通じて、地域から世界のWell-being向上に貢献

3．教育研究の内容

（１）新学部等の組織、入学定員、教員

創造理工学部（仮称）　入学定員100～120人程度

- **デザイン力とそれを支えるデジタル技術を活用し、多様な主体との連携により地域や社会の価値を創造するクリエイティブな人材を養成**

【データサイエンス系コース】
- 情報・デジタルの知識・技術を修得し、デザイン思考を土台に、情報とデジタル技術を実践に結び付けて操る能力を養成

［提供する専門課程］
情報科学・情報基盤、数理・統計・データ分析、AI・知能科学、医療・健康・地域データ分析　など

【建築・デザイン系コース】
- デザインの専門知識と情報分析やデジタル技術を活用し、人々の健康で豊かな暮らしに貢献する能力を養成

［提供する専門課程］
建築・都市計画、建築設計・空間デザイン、建築再生、建築構造・材料・施工、インテリア・住環境デザイン、プロダクトデザイン・伝統工芸　など

※大学院については、研究力向上に向けた取組を図りつつ、小規模から開始する検討を進める。

- 全学共通で学ぶ**起業家精神、ソーシャルイノベーション、実用英語**等を基礎にして、それぞれの学生の専門性を育成
  → 岐阜市をはじめとする地域社会の活性化、そして世界で活躍し地域社会へ還元できる人材を輩出
- 薬学をはじめとする**医療や健康などの分野との連携**により、健康で豊かな暮らしに貢献できる人材を育成
- **地域の発展を共に目指す県内の国公私立大学の役割分担を踏まえる**とともに、高校生や企業の関心度、運営収支の見通し、展開する教育課程、キャンパスの施設規模等を**総合的に勘案し、学生収容定員を400～480人程度**に設定

（２）高大連携・接続

岐女短の高大連携事業を継承・発展し、**高等学校と連携・接続**を深め、**一貫性のある人材育成**体制を目指す。

一貫した教育理念のもとで人材育成を行うため、将来的な附属校（中・高）の設置を検討する。

（３）リカレント教育への対応

高度な専門知識を体系的に付与するカリキュラムを提供し、**市民、企業、公的分野職員の能力育成**に寄与

実施組織としては、岐阜薬科大学の既存の組織の活用も含めて、今後、検討

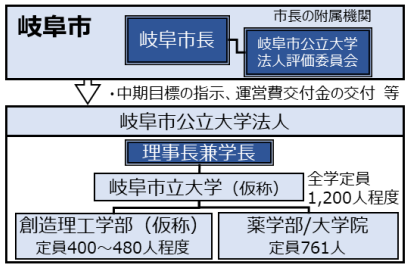
岐阜市立新大学基本計画（市立大学の統合と新学部の設置に向けて）の概要【2/2ページ】

４．新大学の運営

（１）組織体制の方針

- 岐阜薬科大学と岐阜市立女子短期大学の２つの市立大学が、効率的かつ効果的な大学運営を行うため、**岐阜市公立大学法人の下で１つの大学に統合する**。
- 新学部と薬学部の双方にとって学びの幅を広げるとともに、分野の異なる学生の交流の機会を創出する。
- **持続可能な法人組織の体制**は、下記の方針にのっとり**新学部開設までに検討**することとし、更なる少子化時における本地域の高等教育アクセス確保に向けた大学の在り方は、将来課題として検討する。
  - ➢ 2つの市立大学の**特色や歴史を生かせる**ようにすること。
  - ➢ 教育研究及び事務のリソースやノウハウを共有すること等により、**1大学化に伴う相乗効果を得られる**ようにすること。
  - ➢ 役員数の合理化、事務局機能の一元化等により、**経営が効率的・効果的に行われる**ようにすること。
  - ➢ 付属施設の設置については、岐阜薬科大学の既存の組織の活用も含めて、今後、検討する。

【新大学開設後】



５．キャンパス・立地、費用

（１）新学部のキャンパスの在り方

- **「都市全体をキャンパスとする」理念が具現化**されるよう、学生が自然にまちに出て、まちをフィールドとして学ぶ教育研究の実現を図りつつ、**図書館機能や教育研究・交流の拠点となる場として機能するキャンパス**を目指す。

（２）新大学の立地の考え方

- **教育研究、地域貢献や地域の活性化、通学利便性等の総合的な大学の魅力向上**において優位性のある**本市中心部での将来的なキャンパス整備に向け、具体的検討を進める。**
- 本市中心部で多くの若者が集う大学キャンパスの整備を行うことを通じて、より広いエリアに**人の交流**や**経済活性化の効果**を広げ、**新しい形のまちづくり、大学づくりのモデル**にしていくことを目指す。
- 市中心部での整備に伴い、大学施設の**積極的な地域開放**に加え、新大学が**地域の賑わいの核**となることができるようにするための方策について、今後の整備計画に向けた調査及び整備計画の策定の過程で検討する。
- 市中心部でのキャンパスの整備が完了するまでの間、**岐阜薬科大学三田洞キャンパス**を新学部のキャンパスとし、**新学部の早期開設と将来的な施設整備の両立**を図る。なお、三田洞キャンパスの活用にあたっては、教育研究活動に必要な施設・設備の改修を行い、学生が良好な教育研究環境のもとで学ぶことができるよう整備するものとする。

（３）新学部の収支

年間運営費10.5億円程度

収入：学生納付2.6億円程度、一般財源7.6億円程度（地方交付税算定：7.6億円程度）
支出：人件費6億円程度、物件費4.5億円程度

６．新大学開設のスケジュール

- 地域産業を支える人材育成や地域課題の解決に早期に取り組むことが公立大学の重要な役割であることから、新学部は岐阜薬科大学三田洞キャンパスを活用し、**令和11年度（2029年度）の開設**を目指す。
- 新たに整備するキャンパスへの移転の時期は、**可能な限り早い時期での移転を目指し**、今後、候補地や施設整備方法の具体化とあわせて絞り込んでいくこととする。